

令和7年度 学力向上プラン

目 的

(中 3 7) 長崎市立外海中学校

一人一人の生徒に、知識や技能に加え、主体的に学び、判断し、行動し
よりよく問題を解決していく資質や能力など、確かな学力を育む

『チーム Nagasaki』 のびるプラン

一徹底・継続— で子どもはのびる！

<小中9年間を通して育てたい子ども>

- 学ぶ意欲があり、学習の習慣を身につけている子ども
- 基礎的基本的な知識や技能を身につけている子ども
- 問題に対し、学んだことを活用して解決方法を導くなど問題解決力を身につけている子ども
- 自分の考えを論理的にまとめしっかりと表現できる子ども

本校の教育目標 (学力向上関係)

たくましく しなやかに あしたに拓く生徒の育成

<気づき、考え、実行する。>

- 生徒の自己実現のために、確かな学力を定着させる。
- 個に応じた指導により、生徒の可能性、個性の伸長に努める。

諸検査の結果

○学力調査による本校生徒の学力の実態

<1年>国数:4月市(正答率)

<2年>国数:4月県(正答率)

<3年>国数理:全国、英:4月県(正答率)

科	領域等	1年	2年	3年
国語	知識・技能	↑	↑	↓
	話す・聞く	↑	↑	↓
	書く	↑	↑	↓
	読む	↑	↑	↑
数学	数と式	↑	↑	↓
	図形	↑	↑	↓
	関数	↑	↓	↓
	資料活用	↑	↑	↓
理科	*IRT バンドでの判定のため			
英語	聞く 読む 話す 書く			↑ ↑ ※ ↑

生活・学習面の実態

○素直で、授業に取り組む姿勢は良好であり、出された課題に取り組むことができる生徒が多い。

○3年生の学力調査の国語科では全国・県ともに平均正答率が約1ポイント低く、特に言語に関する「知識・技能」に課題がみられる。数学科はすべての領域において全国・県平均を下回っており、基礎的基本的な内容の理解及び定着が大きな課題としてあげられる。理科では「思考・判断・表現」に課題が見られる。英語科では、どの領域においても県平均を上回っている。

○2年生の県学力調査の国語科は県及び市の平均を全領域で上回っている。しかし、話題や展開を捉えながら自分の考えをまとめる設問の正答率は低かった。また、数学科では数と式、図形、資料の活用では県及び市の平均を全領域で上回っているが、関数では県及び市の平均を下回っており、この分野についての今後の取り組みが課題である。

○1年生の市学力調査の国語科では、全国・市の平均を全領域で上回っており、特に「読むこと」の正答率が大きく上回っていた。また、数学科では全ての領域で全国・市の平均を上回っている。

1年 国・数：長崎市の平均より高い↑
平均より低い↓

2年 国・数：長崎県の平均より高い↑
平均より低い↓

3年 国数理：全国の平均より高い↑
平均より低い↓

3年 英：長崎県の平均より高い↑
平均より低い↓

※R7年度検査なし

○7月学校評価 全校<満足度100%>

評価項目	生徒	保護者
わかりやすい授業	100	100
家庭学習の習慣	77	83
進路指導の充実	100	100
進んで読書する	48	52

身につけさせたい学力

国語	○漢字を正しく読み、語句の意味を理解して文脈の中で適切に使う力 ○伝えたい事柄や考えを明確にして、根拠をもって説明する力、記述する力 ○文章の展開や描写に注意して読み取る力、適切に情報を読み取る力
社会	○社会的事象についての基礎的・基本的な知識及び技能 ○社会的事象についての関心を高めるとともに、資料を基に自他の考えをまとめ表現する力
数学	○計算を中心とした基礎的・基本的な問題の内容理解とその定着 ○数学用語や語句を使い、自分のことばで、筋道を立てて説明する力
理科	○自然の事物・現象についての知識・技能の定着 ○知識・技能を活用し、関係性・規則性を見出す力
英語	○自分の思いや考えを、話す力と書く力

全体で取り組むこと

- 基礎的・基本的内容は、授業の中で繰り返し指導する。記憶の定着のために、視覚情報・動作を伴う学習を意識して取り入れる。
- 授業改善を重ね、身につけた知識及び技能を生かす授業を実践する。
- 「個別最適な学び」を重視し、つまづいている生徒への対応を備えた授業を展開する。
- 授業中の学習と、家庭学習がリンクするよう充実を図る。
- 朝の活動時間、週に2回「セルフチェックシート」を利用して、自分の学習を振り返り、理解が十分でない教科と項目を書き出し、その克服に活かす。教師は週末に生徒のファイルに目を通し、自分の授業改善に活かす。
- 生徒が苦手教科や苦手分野を克服できるようキュービナの効果的な活用を図る。
- 全教科、毎時間の授業で「めあて」「まとめ」を明確に示し、生徒が学習内容についてイメージしやすいよう板書を工夫するとともに「書く活動」を充実させる。
- 探究的な学びを充実させるため、単元や授業の中で意図的な対話や協働の場面をつくり、既存知識や体験を活用して問題解決・創造する資質・能力の育成を図る。
- 他教科の授業参観を活発に行い、授業改善に活かす。
- 朝読書の実施と蔵書の充実を図り、読書活動を充実させる。
- 夏休みや冬休みは自習室を開放し、生徒が主体的に学習に取り組める環境を整備する。

各教科で取り組むこと

国語	○漢字の書き取りや言語事項の小テストを実施し、語彙力を身につけさせる。また、辞書を使い、漢字や語句を調べる機会を設け、多様な語句について理解を深めさせる。 ○テーマや条件、文字数などを単元に応じて設定しながら、「書く」活動に取り組ませる。根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く力を身につけるために、自分の考えの根拠となる内容が適切に取り上げられているかどうかを吟味するように指導する。 ○新聞にふれる機会をつくるため、2 階オープンスペースの机の上に新聞を置き、読むように勧める。 ○定期テストにおいて、「書くこと」の記述式解答の問題の回答率を 80%以上になることを目指す。
社会	○単元テストを実施し、基礎・基本の定着を図る。 ○振り返りの時間と音読の時間を確保し、授業内容について記入する。 ○地図や各種グラフ、統計資料等を読み取る力を身に付けさせるため、評価規準を示したルーブリックを設定し、見方・考え方を働かせる授業を仕組む。 ○定期テストにおける、知識・技能の正答率の平均が 70%以上となることを目指す。
数学	○基礎・基本の定着を図る小テストを各単元で実施する。 ○内容理解が難しい生徒については、授業だけでなく、個別指導や支援を実施し、課題解決を行う。 ○3 年生では、公立高校入試の基礎問題に対応できるよう受験対策を実施する。 ○デジタル教科書や教具を積極的に活用して、文章問題の意味や解き方がイメージできるようにする。 ○定期テストの「知識・技能」の項目の正答率の平均が 60%以上になることを目指す。
理科	○授業の始め 5 分間で復習する時間を設定し、知識・技能の定着を図る。 ○観察・実験を通しての考察の時間を十分に確保し、グループ学習を通して、規則性や関係性を見出すように仕組む ○定期テストにおける「知識・技能」の正答率 70%以上を目指す。
英語	○既習の文法事項や教科書の本文を利用して、自分の思いや考え・意見を話す活動・書く活動を授業中に設定し、年間を通して繰り返し学習できる場面を作ることで、アウトプットを習慣化する。 ○定期テストにおける書く領域の、思考・判断・表現力を問う問題で、正答率の平均が 60%以上となることを目指す。